

俳人協会々報

1971年
7月
No. 36

昭和四十五年度定時総会ならびに 社団法人俳人協会設立総会開催

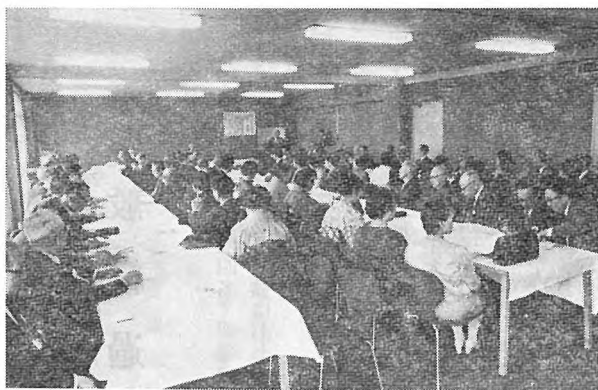
十周年を迎えた俳人協会の定時総会、ならびに、社団法人として発足する俳人協会の設立総会が、去る三月二十七日開催された。以下はその概要である。

東京飯田橋の大神宮会館の会場では、一時前から女流の方々が受付を準備して、いつもながらありがたいことである。轡田進幹事司会により、午後二時より開会。大野林火副会長の開会のことばにつづき、御不快であるという水原会長のかわりに秋元幹事長から、会長挨拶を兼ねた一般経過報告(別掲)があった。「四十五年度の三大大行事、即ち俳句講座、色紙短冊頒布会、福岡での大会、それらが無事成功裡に終了したることにつづいて、本年度は地区大会、地方吟行会を

多く計画したい」という挨拶があり、そのあと議事に入った。議長は、定時総会、設立総会を兼ねて、中村春逸氏が全員拍手のもとに選出された。

第一号議案として、松崎鉄之助幹事より決算報告、「これによる決算支出の部が予算を大幅に上回ったのは、四十五年度の事業をふりかえってみれば分つていただけだろう」との説明がつけ加えられた。つづいて第二号議案として四十六年度予算案、この予算案は会員の会費によって運営する健全財政の在り方から、現会員八百四十二名に加えて、新しく五百名の会員を増やし、会費百万円増を見越したものである。この予算案については社団法人俳人協会の予算として審

議したい旨了承を求め、全員異議なく承認された。ここで有働亨氏より、「法人として発行するに際し、会費長期未納者は除名したらどうか」との質問があった。これに対して秋元幹事長の今後会員を推挙した人が一切の責任をもつようにしたいという答弁でそれは了承された。



これで一応定時総会は終り設立総会に移った。その第一号議案は社団法人俳人協会の設立趣旨について、岸総務部長より、「任意団体の俳人協会を法人化するということとは、三年前より幹事会で打出され、昨年の臨時総会で満場一致で決議されたのである。十年前に発足した協会も現会員数八百を越える盛況、同時に社会的評価も加わり、任意団体としての限界点に達した感がある。ここに於て社会的信用の確保、多額の経費蓄積等の安全管理が必要になってきた。勿論俳句文芸の普及向上に寄与する目的は従前通りである」とその趣旨のべられ、認可については所轄官庁とも度々折衝して確かな見通しがある旨つけ加えられた。

第二号議案、定款、資産について、これも岸総務部長より逐条的に要点の説明がなされた。その目的および事業の項に、俳人会館建設が入っていないが、これについてはもう少し計画というか青写真がはっきりしてからにし、又著作権についても留意することにおきたいとのことで、他はすべて異議なく承認された。

第三号議案、理事監事について。定款にもつき会長、副会長、理事長、常務理事を選出するわけであるが、このうち常務理事には今迄の幹事のうちから各部の部長に、それぞれお願いしたい、と秋元幹事長より提議があり、会長以下理事十三名が選出された。同時に監事二名も

異議なく承認された。つづく第四号議案の顧問についても全員賛成。次に第五号議案の設立代表者については、これまでの経緯の次第もあり岸風三樓氏に委嘱することを満場一致で決定。岸氏の簡潔な挨拶があった。第六号議案の総会議事録の署名者については、林翔、堀喬人の二氏に決定した。

以上で議事は終り、続いて第十回俳人協会賞授賞式が行われた。既報のとおり、石田あき子さん、林翔氏の二名である。授賞後水原会長は、「二名がともに馬酔木人であることは、私にとって非常にうれしく、またが又たいへん嬉しいことでもある」と、慈愛に満ちた感想が述べられた。つづいて、石田あきさんに対して及川貞さんが、林翔氏には能村登四郎氏が、それぞれ自分のこと以上に嬉しい、と感想とお祝いの言葉が述べられた。そしてこのあと二人の授賞者の挨拶があり、会場は拍手につつまれた。

拍手の鳴りやむのを待って「国語教科書と俳句」と題し石井桐陰氏の講演が始まった。時間の関係で話が必要に止ったのは残念であった。俳句の良さは教えることは出来ない、ということから文学教育不可能を説きながらも、今度国語教育上適当とする俳句をたくさん俳人協会にストックしておいて貰いたいと結ばれた。すでに六時近かったが、このあとの懇親会もなかなかのにぎわいであった。

△総会出席者▽

五所平之助・阿片瓢郎・林夜寒楼・川村柳月・角川源義・野沢節子・西山誠・河上風居・中村行一郎・樋笠文・細木芒角星・豊田村雀・岸田稚魚・原裕・大野林火・福田蓼汀・安住敦・山口青邨・青木よしを・山本嵯迷・中村草田男・市村究一郎・沢木欣一・山岸治子・奥村迺牛・森田峠・岩城のり子・秋元不死男・遠藤素兄・新井英子・有働亭・中村春逸・長谷川久代・小谷菟花・大場美夜子・斉藤道子・本宮鼎三・大竹孤悠・樋口玉簾子・松岡凡草・真光葉舟・清水径子・佐野鬼人・松本澄江・佐野美智・福地愛翠・若木一朗・菖蒲あや・中村金鈴・菊池麻風・皆吉爽雨・野竹雨城・山崎雅生・柴田白葉女・久保田千湖・羽村野石・富岡掬池路・角川独峰・村山古郷・牧瀬蟬之助・野口白城・有賀辰見・能村登四郎・宮津昭彦・木村蕪城・岡田日郎・増成愛翠・千賀静子・松本旭・樽田進・西城尚陽・鈴木白祇・松野自得・上田五千石・今棧一・遠藤梧逸・松崎鉄之介・水原秋桜子・長谷川秋子・上井正司・香西照雄・石田あき子・村上光子・塩谷初枝・井沢正江・山田みづえ・岸風三樓・石井桐陰・細見綾子・金子麒麟草・和田暖泡・石川桂郎・木谷島夫・遠藤正年・中尾寿美子・橋本夜叉・林翔・河野閑子・秋山夏概・宮下翠舟・富安風生・滝沢伊代次・岸部秋灯子・田鎖雷峰・青柳志解樹・杉山岳陽・草間時彦・

及川貞・野崎ゆり香・鷹羽羽行・尾形不二子・東早苗・佐々木康人・岡本まち

一般経過報告

○現在会員数の執告

本日、現在において八四四名。前総会(45・3・28)に於ける協会員数は七七〇名。七四名の増加をみた。

その間、退会者二名。死亡会員一

名。死亡会員の氏名は高橋正子(氷海)・田中鼎子(獺祭)・渡辺満峰(かつらぎ)・逸見吉茄子(夏草)・小倉栄太郎(鶴)・兼卷且流子(馬酔木)・吉田子老(獺祭)・岡田拔山(山茶花)・岡本圭岳(火星)・石山秋月(かびれ)・菅 裸馬(同人)の諸氏。生前のご協力に対し感謝を捧げ、心よりご冥福を祈る。

○会長・副会長・顧問・監事の異動

昨年の臨時総会(45・11・12)に於て副会長二名、監事一名の新任が決定。現在において会長一名、副会長二名、顧問五名、監事二名である。

○幹事の異動

幹事の犬野林火・中村草田男両氏の副会長就任に伴い現在三二一名。内、常任幹事二六名を置き毎月幹事会を開催、運営に当たってきた。

○評議員の異動

菅 裸馬のご逝去に伴い現在三二一名。本日午前中、評議員と幹事との懇談会を持ち協会運営について意見を交換した。

子・三田己乗・宮本径考・三溝沙美・成瀬桜桃子 以上 一一八名

○主なる事業について

イ、第九回全国俳句大会 7・19

ロ、第一回俳句講座 7月・8月 (東京)

ハ、第一回俳句色紙短冊展 9・3 (東京)

ニ、第一回九州俳句大会 9・23 (福岡)

ホ、第六回関西俳句大会 11・8 (大阪)

ヘ、第二回会員懇親吟行会 11・23 (千葉)

ト、第十回俳人協会賞審査会 12・5 (東京)

などで従来の事業のほかに新たに行なった事業は三種に及び、それぞれ盛況であったことは既報の通り。尚、俳人協会賞はこれも既報の通り林翔・石田あき子氏に決定。本日その授賞式が行なわれる。なおこれからの事業については地区俳句大会・地区会員懇親吟行会など可及的広範囲に亘り開催実現を進めるつもり。今年には協会創立十周年を迎えるに当り事業と運営につき先般来、会員諸氏のご協力をお願いしてあるが、協会の強化発展のため一層のご協力をお願いして一般経過報告とする。

(秋元幹事)

(市村究一郎)

昭和45年度収支決算書

(自 昭和45年1月1日
至 昭和45年12月31日)

俳人協会

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
褒賞費	32,210	前年度繰越金	930,120
総会費	90,276	会費収入	1,267,500
会議費	317,750	大会収入繰入金	616,964
印刷費	392,405	選集発行繰入金	485,549
通信費	110,806	色短展繰入金	322,968
交際費	11,000	俳句講座繰入金	100,875
旅費	327,390	受取利子	129,703
諸手数料	652,500	寄附金収入	42,000
事務所費	340,000	雑収入	39,342
寄附金	322,968	期末在庫図書	414,000
行事分担金	85,000		
事務用消耗品費	44,600		
雑費	52,438		
期首在庫図書	120,000		
翌年度繰越金	1,449,678		
合 計	4,349,021	合 計	4,349,021

昭和46年度収支予算書

(自 昭和46年1月1日
至 昭和46年12月31日)

俳人協会

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
褒賞費	70,000	前年度繰越金	249,678
会議費	400,000	会費収入	2,684,000
印刷費	500,000	受取利子	150,000
通信費	200,000		
旅費	400,000		
編集費	50,000		
交際費	50,000		
事務委託費	720,000		
行事分担金	250,000		
事務用消耗品費	50,000		
減価償却費	20,000		
雑費その他	124,000		
翌年度繰越金	249,678		
合 計	3,083,678	合 計	3,083,678

剰 余 金 処 分

前年繰越剰余金	930,120
当年剰余金	519,558
合 計	1,449,678

上記は下記の通り処分しました。

俳人会館建設式当金繰入	1,200,000
翌年度繰越金	249,678

財 産 目 録 (昭和45年12月31日)

(資産の部)

摘 要	内 訳	金 額
現 金	昭和45年12月31日 手許有高	32,854
預 金	普通預金 住友銀行虎ノ門支店 他3店	1,420,649
	定期預金 勸業銀行銀座支店 他2店	800,000
	振替貯金・振替貯金 東京 273	275,352
	地方支社保官預金 関西支社分	87,695
	九州支社分	94,383
		2,678,079
未 収 入 金	会費未収入分 延 96名	177,200
	選集分担金 他	25,000
		202,200
在 庫 図 書	現代俳句選集Ⅱ 100冊 Ⅲ 420冊	414,000
什 器 備 品	宛名印刷機 57,715 テーブコーダー 29,490	87,205
仮 払 金	10周年記念事業他一時支払分	25,690
		25,690

(負債の部)

前 受 金	46年以降分会費既支払分 150名分	190,350
-------	--------------------	---------

(引当金の部)

建 設 引 当 金	俳人会館建設引当金	3,000,000
		3,000,000

梅が島五句

秋元不死男

峡中に斑雪甲斐の樹
 峡の根に牙ぶつて重解川
 牙のかゝる峡茶島の瘦せ
 い湯澄して吉白き二月
 たどが水が童攫ひに峡の梅

梅が島五句 秋元不死男
 峡中に斑雪甲斐の樹駿河の木
 峡の根に筈ぶつて雪解川
 牙をかへる峡茶島の瘦せ坐り
 山湯浴して吉白き二月
 たどが水が童攫ひに峡の梅

四月常任幹事会

昭和四十六年四月十五日(木)
 於・東京大神宮会館

〔出席〕 秋元不死男、皆吉爽雨、安住敦、草間時彦、有働亨、上田五千石、角川源義、岸風三樓、岸田雅魚、木村蕪城、轡田進、沢木欣一、鷹羽狩行、成瀬桜桃子、能村登四郎、林翔、原裕、松本旭。

〔議事〕

(1) 総会関係経過報告

岸総務幹事から総会関係の報告のうち、法人移行上の問題として理事と幹事の關係について討議された。また、本部、支部(支社)の關係についても提議されたが、これらは研究課題として、組織規定(支部規定を含む)、庶務規定(旅費規定、給与規定を含む)等の附属規定を立案することとした。

(2) 行事関係

①全国俳句大会募集句の選考關係について、草間幹事から説明。応募句約一万二千句、予選選出句約一千八百句、四月十七日に本選者に送稿し、月末までに選定の予定。

②色紙短冊展について、草間幹事から説明、本年度開催は十月か十一月の予定で進めている。今回は新聞社の後援をやめるので周知方については特に各俳誌に協力方を請することとした。

③俳句講座について、成瀬幹事から報告、期日は七月、八月の金曜日、会場は前回と同じく三會堂と決定。会費決定について意見を徴した。

④組織強化委員會關係について安住幹事から説明、新會員推薦は、三四二通中、二八二通が返信到着、なお、続々と申し出あり目下整理中。

⑤十周年記念行事基金募集について、皆吉幹事から報告、向後の基金募集と運用關係について新たに委員會を設けることを検討することとした。

⑥会費滞納者について。現在、四年以上の滞納者二名、三年以上九名。これらについては再度督促(期限付き)し、回答がなければ自然退会とすることとした。
 ⑦その他、地方部の部長を有働幹事が担当することとなった。(轡田)

五月常任幹事会

昭和四十六年五月十日(月)
 於・東京大神宮会館

〔出席〕 大野林火、秋元不死男、草間

時彦、皆吉爽雨、有働亨、上田五千

石、角川源義、加倉井秋を、轡田進、香西照雄、沢木欣一、鷹羽狩行、成瀬桜桃子、千代田葛彦、林翔、原裕、松崎鉄之介、松本旭。

〔議事〕

① 全国大会

皆吉幹事から準備状況を報告。草間幹事から周知方協力依頼ののち、入選合点上位句の授賞数および類句等有無の検討を行なった。なお協会賞作品中「負け鶏を抱きて大き掌なりけり」の掌は「て」と読まずのは誤りである旨、皆吉幹事の指摘があり、「手」の字に訂正して発表することとした。

② 第二回俳句講座

成瀬幹事から予算案を提示、説明があったが、このうち、受講料について討議の結果、会員と一般は同額とし一率四千円とすることとした。

③ 第二回色紙短冊展

草間幹事から報告。これと類似の催しが、七月八日から小田急百貨店で行なわれる模様（現在俳壇大家染筆展）だが、これは俳人協会の色紙展とは全く別で、協会とは関係がないこと、出品依頼を受けた会員と連絡をとって慎重に対処したい旨の発言があった。

④ 十周年記念行事基金関係

前月の幹事会での発議にもとづき、基金関係の新委員会を設けることとし、委員長を角川幹事に委嘱したい旨、秋元幹

事長から提議があり、一同賛成の結果、

角川幹事が受諾。名称については、初め、基金運用委員会の案があったが、それでは、募集を継続する趣旨が示されないとの意見（有働）があり、一応「十周年記念事業委員会」とすることとした。なお角川委員長から、この委員会の中に、募集委員会と会館設立委員会の二つを設け、しかるべき人にそれぞれの委員長を委嘱したい旨の披瀝があった。

⑤ 地方部について

秋元幹事長から、地方部員補充について次の人選を提案し諒承を得た。
出版部から、林翔、松本旭。企画部から清崎敏郎。事業部から上田五千石。成

瀬桜桃子（事業部と兼任）。

次に有働地方部長から、地方部の分掌について、当分は、懇親執行会、名古屋、九州の地方大会を地方部の仕事としてゆきたい旨発言があった。

⑥ 部長交替

角川出版部長から、香西企画部長と交替したい旨の希望があり、以後、出版部長を香西幹事、企画部長を角川幹事が担当することとなった。

⑦ 幹事増員について

秋元幹事長から幹事二名増員方について発議があり、会長の推薦をまって委嘱することとした。

六月常任幹事会

昭和四十六年六月二十四日（木）
於・東京 大 神宮 会 館

〔出席〕 秋元不死男、安住敦、草間時彦、有働亨、角川源義、加倉井秋を、

木村蕪城、岸田雅魚、轡田進、沢木欣一、鷹羽狩行、成瀬桜桃子、能村登四郎、林翔、原裕、松崎鉄之介、松本旭。

議事に先立ち、秋元幹事長から、①全

国大会受賞者の当日の処遇について会員から要望があったので、次回から受賞者係を設ける等考慮したい。②会報の定期刊行の促進方、について発言があり、また、新幹事に、有賀辰見（夏草）、岡田日郎（山く）の両氏を委嘱（会長推薦、決

定）した旨報告があった。

〔議事〕

① 第十回全国大会

松崎幹事から収支報告書の説明があった。

協会賞入賞作品「大霞して一湾のなきごとし」は、類句があることが判明したので取消すこととした。（第六回全国大会入選作「大霞して雪嶺のなきごとし」、その作者からの通報による。）

② 色紙短冊等の染筆について

最近、新聞社その他から染筆依頼が多いが、協会として染筆料について一定の

◆お 願 い

46年度協会費（年二千元）未納の方は、ご送金下さい。昨年十一月の臨時総会の決議により本年度から協会費が改正（昨年度までは年、千二百円）されましたから、お間違えのないように願います。（銀行小切手の場合は手数料百円分加えてお願いいたします。）

あて先 101東京都中央区銀座五丁目六一八眼目ビル
俳人協会
電話（〇三） 五七三一
七四八七
振替 東京 二七三番

線を決める必要があるかどうかは今後の課題とするが、当面は、かるがるしく筆しないよう申し合わせた。

④ 第一回東海俳句大会

有働幹事から、開催要綱案について報告があつてのち、名称、講師、賞品（選者短冊）等について討議。

⑤ 著作権について

朝日放送から、会員の俳句作品使用に關して使用料契約方申越しがあつたことについて検討。著作権代行については別個の法体系に属するので、さらに検討することとした。

⑥ 第二回俳句講座

成瀬幹事から受講申込状況を報告。

第二回俳句講座

○主旨

俳句の実作指導と、作句に役立つ経験談を通して理論、鑑賞を学ぶ公開講座です。

○日時

七月九日より八月二十七日までの毎週金曜日。午後六時から八時三十分まで。

二時間目	一時間目	講義	質疑応答	休憩
七、二〇〇～ 八、二〇〇	六、〇〇〇～ 七、〇〇〇		七、〇〇〇～ 七、一〇〇	七、一〇〇～ 七、二〇〇

○会場

東京都港区赤坂一九一三 三会堂ビル（九階）石垣記念ホール
電話（〇三）五八二一七四五

最寄り駅・バス停

地下鉄……八虎ノ門Vまたは八議事堂前V

バス……八虎ノ門Vまたは八溜池V

国鉄……八新橋Vよりタクシー

○募集人員及び会費

先着 一五〇名（六月三十日締切） 会費 四、〇〇〇円（現金書留のこと）

○申込先

・申込及び送金先 〒一〇一 東京都中央区銀座五丁目六番八号 眼目ビル
俳人協会宛 電話（〇三）五七三二七四八七

・申込方法 住所、姓号、所属結社明記の上、会費と同封郵送のこと。
受付順に領収証に代えて受講票をお送りします。

○講座内容 下記の予定

○受講者への特典（第二回俳句講座賞への応募）

・受講者は自作三句を第二回俳句講座賞応募作品として、俳人協会あて提出することができます。応募作品の中から最優秀作に第二回俳句講座賞、佳作若干に佳作賞を贈ります。

・第二回俳句講座賞応募作品の募集締切日 七月三十日
・第二回俳句講座賞審査結果発表

八月二十七日（金）終講の際受賞式を行います。また八俳人協会会報Vに公表します。

一日だけの受講も受付中（一回につき五百円）

月 日	題 名	講 師
7月9日（金）	続・俳句の作り方 続・俳句の直し方	水原秋桜子 秋元不死男
7月16日（金）	作句の心 わたくしの工房	細見綾子 安住 敦
7月23日（金）	季語と実作 季語と実作	平畑静塔 〃
7月30日（金）	女性と俳句 散文と韻文	野沢節子 清水基吉
8月6日（金）	未定の俳句 女流の俳句	宮 柊二 角川源義
8月13日（金）	写生の実際 俳句の構成	皆吉爽風 加倉井秋を
8月20日（金）	俳句の作り方・味わい方 俳句の新しさ古さ	富安風生 岸風三楼
8月27日（金）	わが句を語る 俳句講座賞講評及び受賞	中村草田男 各 選 者

講師の健康上の理由等で変更する場合がありますので、ご承知下さい。

第七回 俳人協会関西俳句大会

俳人協会主催で俳壇の主な結社が合同して行なう大会です。有季定型の俳句なら、誰でも投句出来ます。

◎応募 二句一組(雑詠、未発表のもの、前書なし、原稿紙使用)何組投句も可。但し、会費一組につき三百円。

◎投句宛先 豊中市本町八丁目一五、米沢方、
俳人協会関西支社 〒560

◎投句締切 八月三十一日

◎選者(予定)(順序不同)

水原秋桜子、富安風生、阿波野青畝、山口誓子、山口青邨、安住敦、秋元不死男、石塚友二、五十嵐播水、右城暮石、大野林火、大橋桜坡子、角川源義、後藤夜半、佐野まもる、下村非文、中村草田男、中村若沙、皆吉爽雨、堀内薫、山口波津女、森田峠、亀井糸游、米沢吾亦紅、

◎発表 十一月十四日(日)午後一時より

大阪市東区法門坂町一〇(NHK新館東隣り)

府立農林会館五階講堂(入場無料)

◎賞 朝日新聞社賞、俳人協会大会賞、特選句は選者の短冊又は記念品

◎講演 聖心女子大名誉教授・逸翁美術館長岡田利公衛氏

◎大会当日参会者より一句を募集(投句締切午後二時)出席選者教氏による特別選を行う予定。特選句には賞を呈します。

(会費不要)

◎投句は選者の教氏により予選を行います。

投句者には大会終了後入選作品集を送ります。尚、投句の受領書は発行しません。

主催 俳人協会
後援 朝日新聞社

俳人協会主催

第一回関西吟行大会

関西での初めての大規模な吟行大会です。伝統派のお方なら协会会员でなくてもだれでも参加出来ます。多数ご参加下さい。

(雨天決行)

日時 九月十五日(敬老の日)受付一〇時より

吟行地 生駒山

会場 生駒聖天門前 洗心閣
ケーブル宝山寺下車

投句 触目一人三句・正午締切・互選あり

(各自自由吟行の上お集まり下さい)

選者 山口 誓子・阿波野青畝・下村 非文・堀内 薫
右城 暮石・米沢吾亦紅・森田 峠・亀井 糸游

西矢 籟史・沢田弦四朗・三好 潤子・見市 六冬

山本 古瓢・大竹きみ江・赤松 柳史・藤田 露紅

小山 都址・亀井 淡子・中村 若沙・磯野 莞人

以上予定(順不同)

会費 参百円(当日納入)

表彰 特選句に選者の短冊、他に秀逸句発表

主催 俳人協会